

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 25 日作成)

小委員会名	窓・開口部アカデミックスタンダード小委員会		主 査 名：平手 小太郎 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2010 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・日本建築学会環境基準「室内光・視環境に関する窓・開口部の設計・維持管理 規準・同解説」の刊行		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：平手小太郎(東京大学), 幹事：大井尚行(九州大学), 宗方 淳(千葉大学), 委員： 井上容子(奈良女子大学), 奥田紫乃(同志社女子大学), 加藤未佳(日本大学), 佐藤隆二 (大阪工業大学), 吉澤 望(関東学院大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2008 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画, 主査幹事会を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1.(名称)シンポジウム「光・視環境に関する窓・開口部のアカデミックスタンダード」 参加者数 28 名 (資料名)「室内光・視環境に関する窓・開口部の設計・維持管理規準・同解説」(案)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1.DS 執筆 完了 2.シンポジウム開催 完了
委員会活動の問題点・課題	1.シンポジウム後の最終調整に時間が必要となり,パブリックコメントが次年度にずれ込んだこと

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>活動初年度で、上半期は CD 作成，数値規準・測定法の内容合意，内部査読・外部査読実施を行い，下半期で，DS 執筆，シンポジウム資料作成，シンポジウム開催まで達したことは，十分評価できると考える。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。